

ロジスティクス環境会議
第6回省資源ロジスティクス推進委員会

2004年9月24日(金)15:00～17:00
芝パークホテル 本館3F 牡丹

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) 事例集のまとめ方について
- 2) ガイドラインについて
- 3) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 省資源ロジスティクス事例集(案)
資料2 : 省資源ロジスティクス対策実施上の課題
資料3 : ガイドラインの作成について
参考資料1 : 第5回委員会議事録
参考資料2 : 第4回分科会議事録
(機械器具・精密機器分科会、食品・流通分科会)
参考資料3 : 事例集の編集方針と公開方法について

以 上

省資源ロジスティクス事例集（案）

ロジスティクス環境会議

省資源ロジスティクス推進委員会

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

はじめに

ロジスティクス活動では、化石燃料、木材、紙などの天然資源が使用されており、その量は極めて膨大な量に及びます。省資源・省エネルギーの視点から物流の環境負荷を低減するため、共同物流、モーダルシフト、省資源包装等の活動を促進することが必要です。

省資源ロジスティクス推進委員会は、ロジスティクスにおける天然資源の使用量を可能な限り抑制する「省資源ロジスティクス」の実現を目指しています。委員会の参加メンバーが取組んでいる省資源・省エネルギーの物流活動の事例を広く公開して、関係者の事業活動の環境負荷低減につなげていこうと考えています。そのためには、荷主企業、物流事業者といったロジスティクスの関係者が実際の省資源活動に生かせるようなアウトプットが求められています。

省資源ロジスティクスを実現していくには、調達→生産→販売までの全ての流通部分に関わっている事業者が、省資源・省エネルギーの物流活動を荷主サイド、荷受サイド、或いは物流業者など、あらゆる立場、側面からの調整が必要となります。参加メンバーが作成した事例が、これから共同物流やモーダルシフトなどに取組む事業者にとって、実現に向けた検討を行ううえでの情報源として利用してもらい、物流活動の省資源・省エネルギー化に活用してもらえれば幸いです。

目次

1. 概要

- 1) 活動の方針、目標、計画
- 2) 事例の作成までの経緯
- 3) 参加グループが取組んでいる対策
- 4) 個別対策の取組みと課題

⇒「課題」については、「資料2」の内容を整理したものを掲載

2. 事例集

- 1) 共同物流対策
 - (1)食品・流通
 - (2)機械器具・精密機器
 - (3)素材（化学・鉄鋼等）
- 2) モーダルシフト対策
 - (1)食品・流通
 - (2)機械器具・精密機器
 - (3)素材（化学・鉄鋼等）
- 3) 包装資材等対策
 - (1)食品・流通
 - (2)機械器具・精密機器
 - (3)素材（化学・鉄鋼等）
- 4) トラック・物流施設
- 5) その他

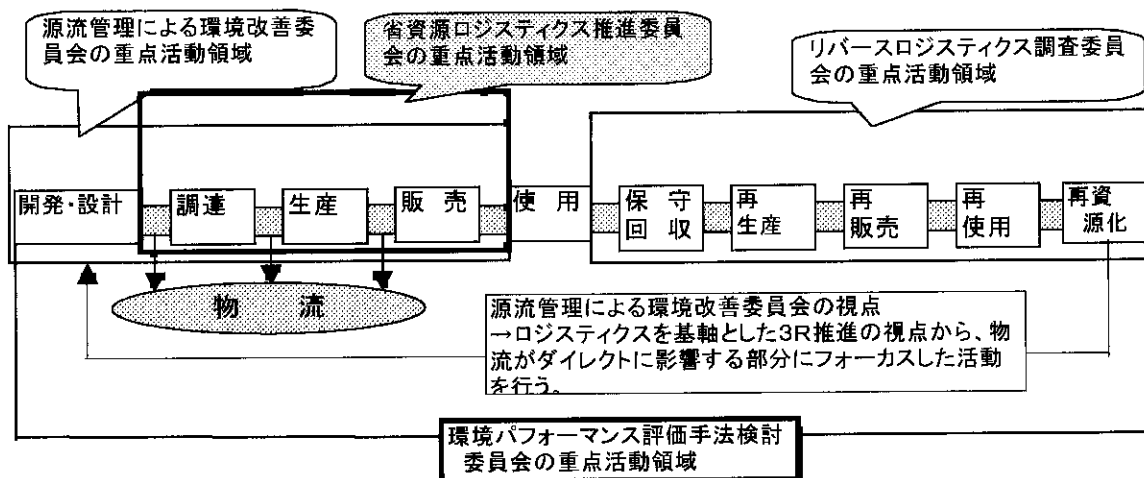
1. 概要

1) 活動の方針、目標、計画

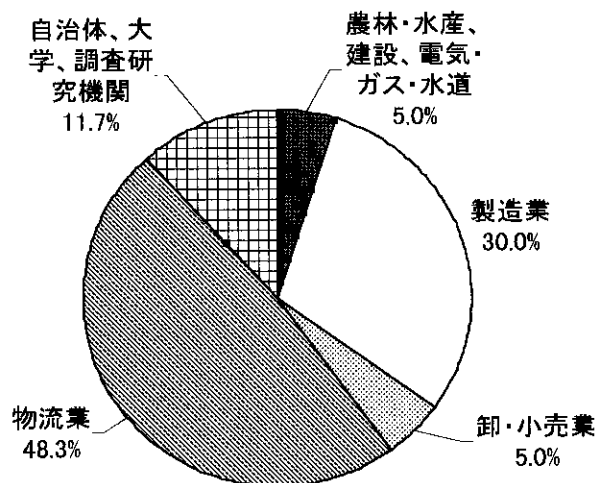
省資源ロジスティクス推進委員会は、ロジスティクス環境会議が目指している「循環型社会を実現するロジスティクスの構築」の実現に向けた5つの課題のうち、調達→生産→販売までの複数企業間、業際間を主体とする流通部分を対象に省資源ロジスティクス活動を行っています。

省資源ロジスティクス推進委員会の参加メンバーは、57社、3大学が参加し、その内訳は、物流業が48.3%、製造業が30.0%、卸・小売業が5.0%である。物流業と製造業で全体の78.3%を占めています。省資源ロジスティクスの領域範囲である調達→生産→販売までの流通部分に直接関与している業種で構成されています。

省資源ロジスティクス推進委員会の重点活動領域



省資源ロジスティクス推進委員会参加メンバー構成



2) 事例の作成までの経緯

事例集は、参加メンバーが取組んでいる原材料の調達段階から製品又は商品の使用段階までの流過程における共同物流対策、モーダルシフト対策、包装資材等削減対策などの事例を収集し、取りまとめたものです。

事例集の作成にあたっては、食品・流通グループ（食品・卸売・農林水産・流通）、機械器具・精密機器グループ（機械器具・精密機器・輸送用機械器具・電機機械器具）、素材グループ（化学・鉄鋼）の3つの分科会に分かれて、事例に関する情報交換、さらには事例集の編集方針、事例集の構成等について確認しながら進めました。

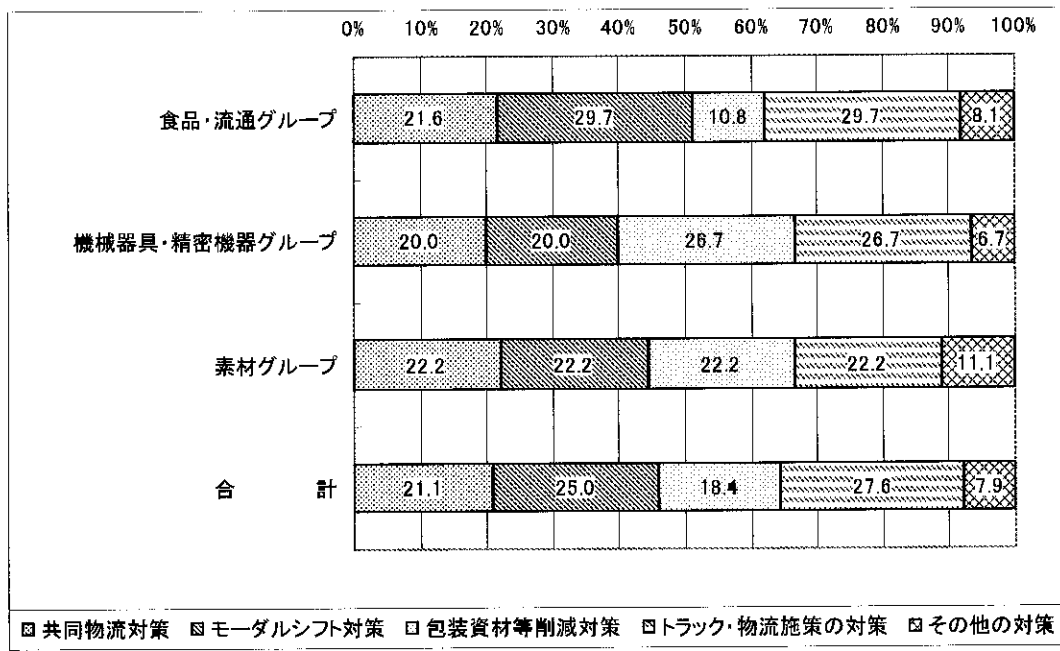
3) 参加グループが取組んでいる対策

参加メンバーが取組んでいる事例をみると、各グループで取組んでいる対策に大きな差はなく、それぞれの対策に広範囲に取組んでいることがわかります。

グループ別の対策別回答件数割合 (単位：件数)

	共同物流対策	モーダルシフト対策	包装資材等削減対策	トラック・物流施策の対策	その他の対策	合計
食品・流通グループ	8	11	4	11	3	37
回答率(%)	21.6	29.7	10.8	29.7	8.1	100.0
機械器具・精密機器グループ	6	6	8	8	2	30
回答率(%)	20.0	20.0	26.7	26.7	6.7	100.0
素材グループ	2	2	2	2	1	9
回答率(%)	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1	100.0
合計	16	19	14	21	6	76
回答率(%)	21.1	25.0	18.4	27.6	7.9	100.0

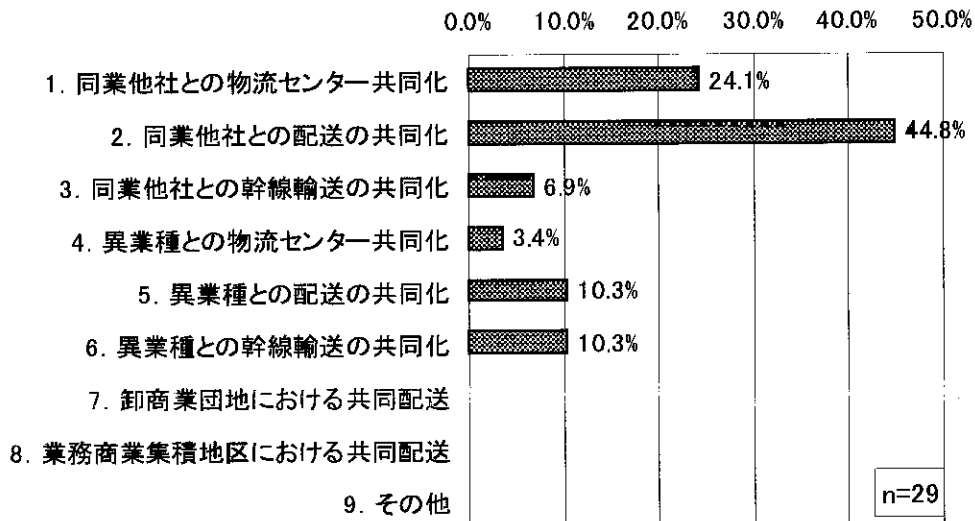
グループ別の対策別回答件数割合



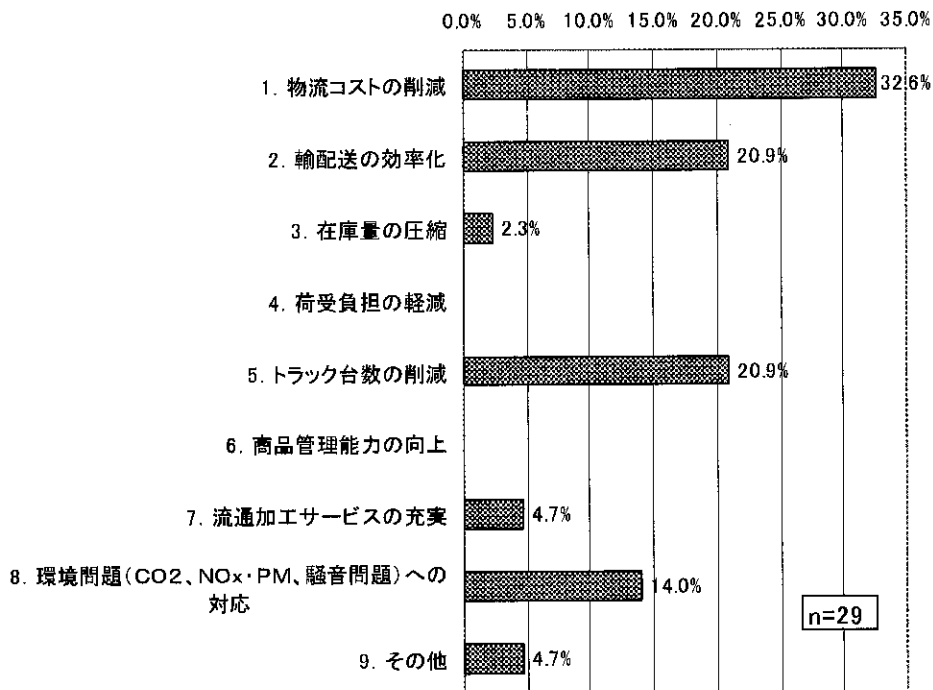
4) 個別対策の取組み状況

① 共同物流対策

●現在取組んでいる共同物流対策のタイプ（複数回答）

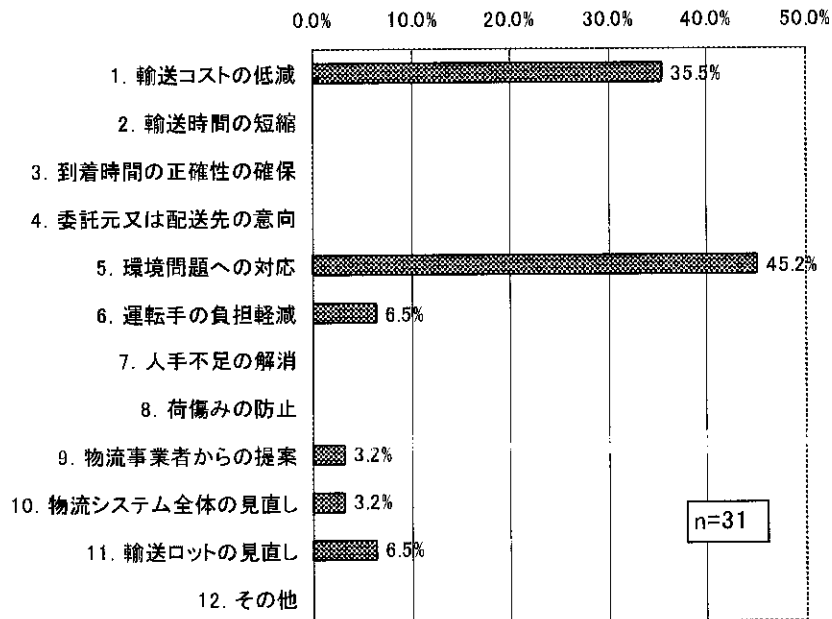


●共同物流を行った主な理由（複数回答）

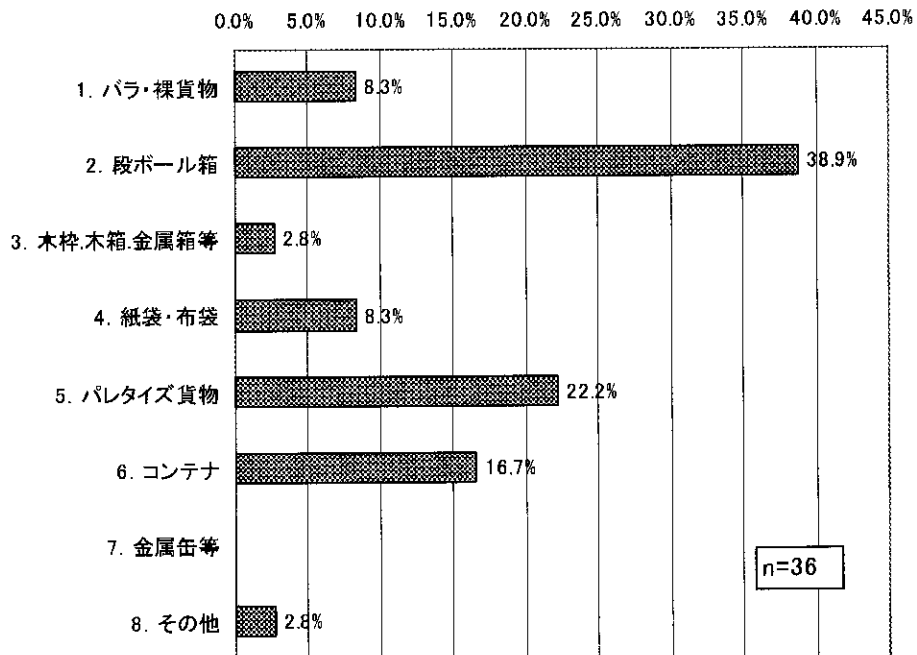


② モーダルシフト対策

●モーダルシフトを行った主な理由（複数回答）

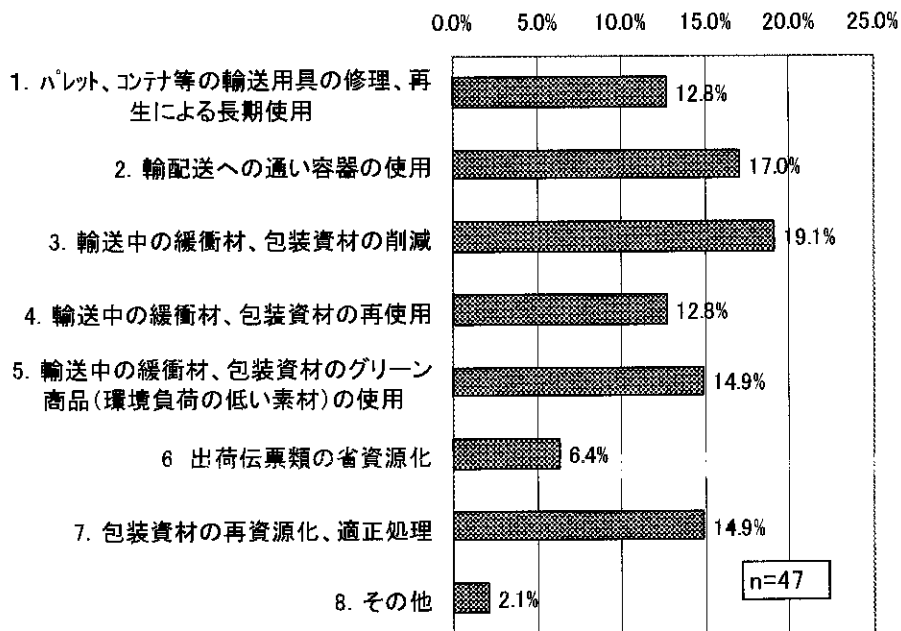


●モーダルシフトをした貨物の荷姿（複数回答）

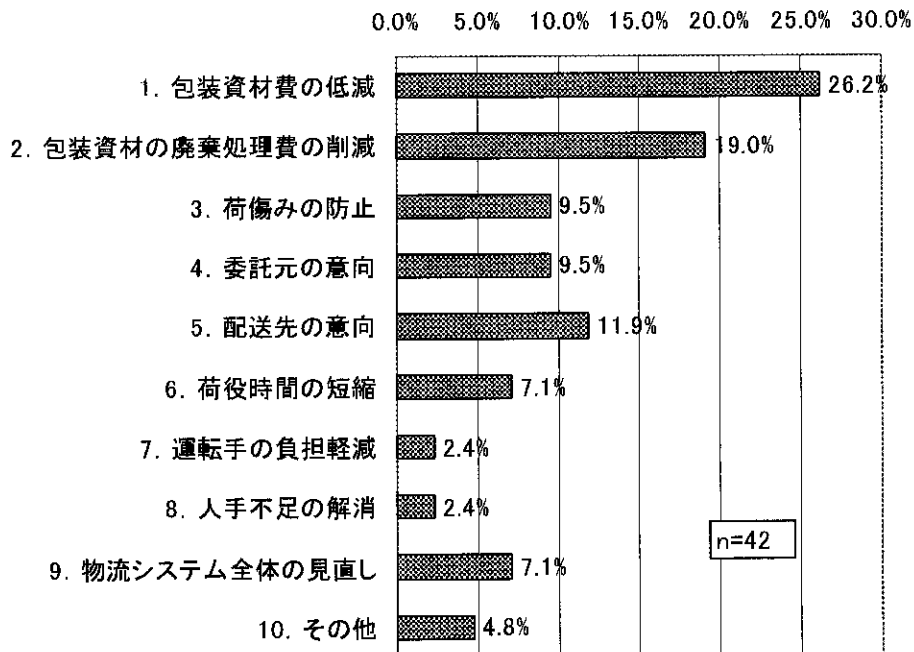


③ 包装資材等対策

●取組んでいる包装資材等削減対策事例（複数回答）



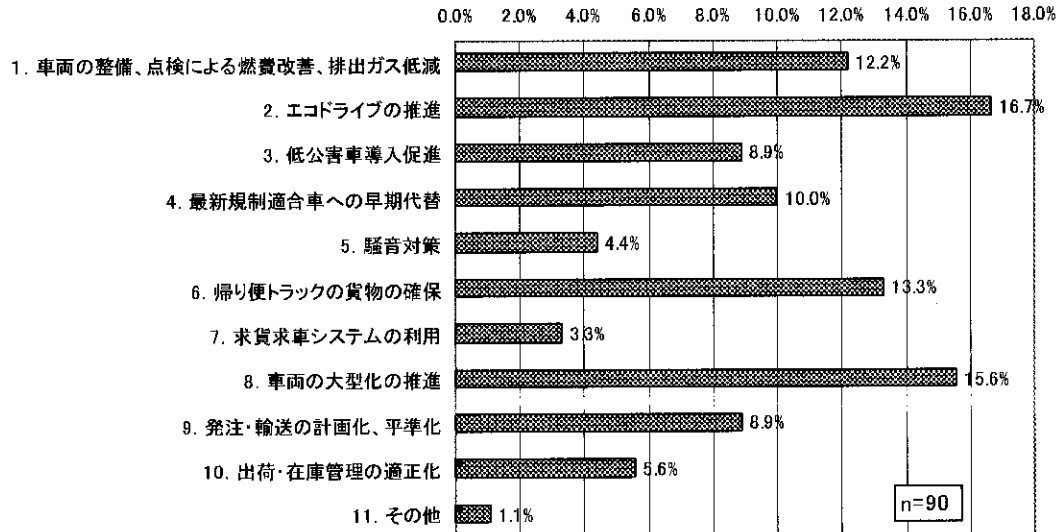
●包装資材等削減対策を行った主な理由



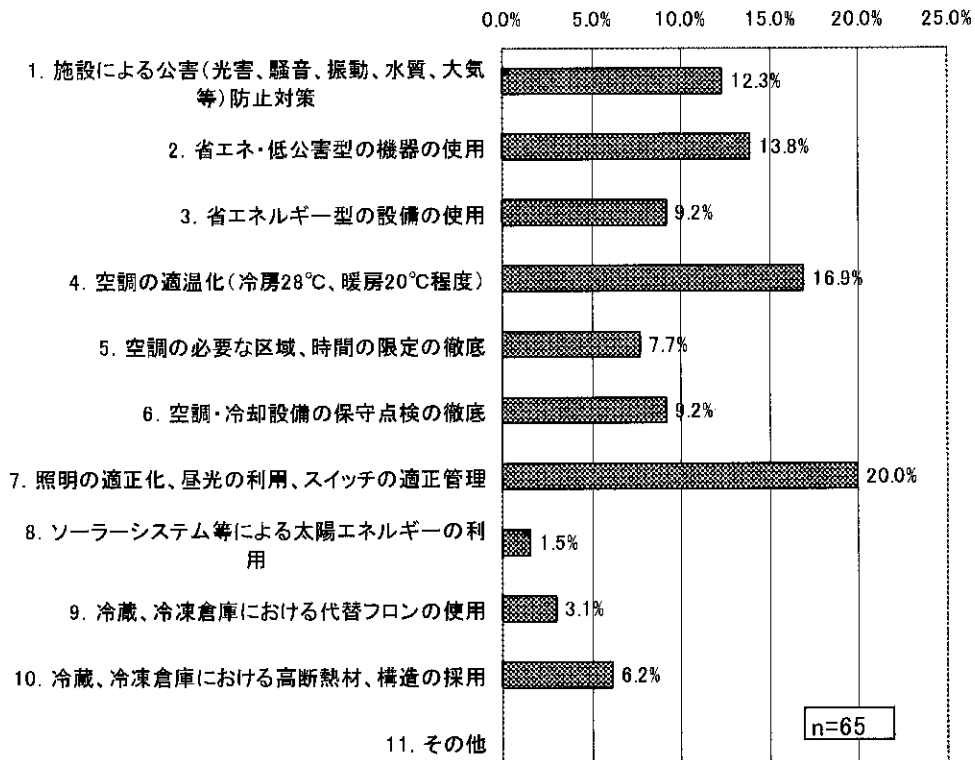
④ トラック・物流施設の対策

●取組んでいる又は依頼しているトラック・物流施設のの対策（複数回答）

■トラック

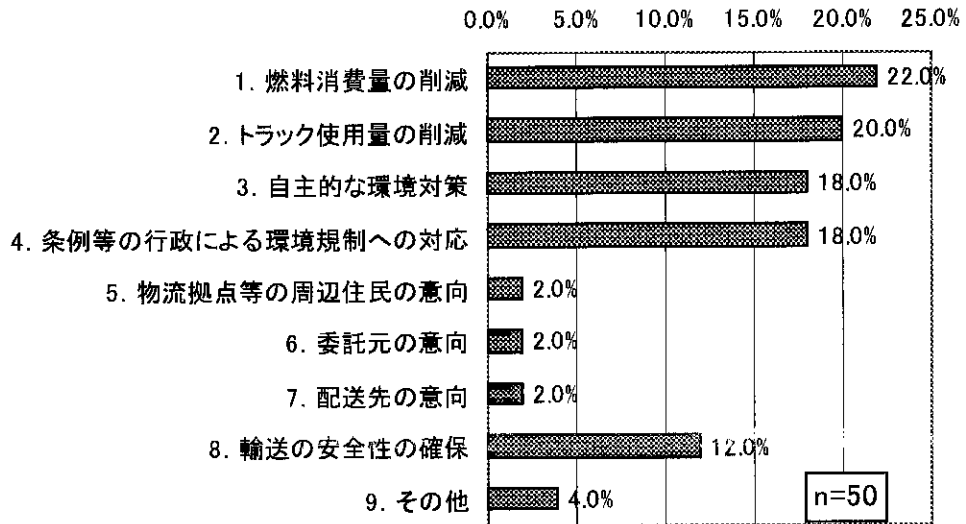


■物流施設

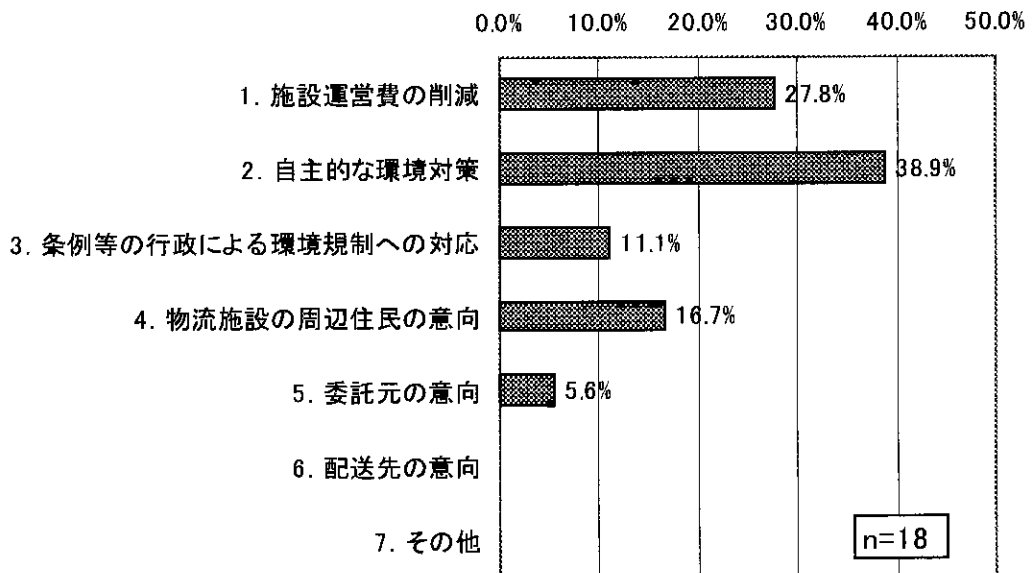


●トラック・物流施設の対策事例を行った主な理由(複数回答)

■トラック



■物流施設



ガイドライン(指針)作成の概要(案)

1. 作成にあたって基本的な考え方

ロジスティクス分野の環境負荷を更に低減するためには、共同物流、モーダルシフト等のような荷主企業と物流企業等の複数企業間の連携や各社における省資源活動が不可欠である。

しかし、共同物流、モーダルシフトはコストやサービスレベル等の問題によって、総論賛成各論反対のように、理想的には進んでいないのが現実である。また、各社の省資源活動を推進するうえでも、例えばトラックの内寸の規格が統一されていない等の問題もあり、十分に改善されているとは言えない状況である。

省資源ロジスティクス推進委員会では、共同物流やモーダルシフト等の事例収集の中で収集された課題を中心に整理し、荷主企業、物企業等がどのようなことに留意すれば環境負荷が低減され、なおかつコストアップを防ぐことができるか、という視点において、荷主企業と物流企業等がパートナーとして継続的に環境負荷低減の活動が可能となるガイドラインを作成したい。

※主な論点の例(事例集の課題より抽出)

1) 共同物流

(1) 納品条件の整備

- ・リードタイムの調整
- ・イレギュラー対応の調整 など

(2) 安定的な輸送量の確保

(3) その他

2) モーダルシフト

(1) 納品条件の整備

(2) ダイヤ編成

(3) 輸送品質

(4) コンテナのバリエーション、強度

※積載可能な製品が限定される

(5) 積替えなどのロスタイム

※駅等の結節点と鉄道とトラック等の輸送機関のアクセス など

3) その他

2. ガイドライン作成のステップ

- 1) 編集方針の検討と確認 ⇒2004年10月～11月
- 2) 事例集「課題」の整理 ⇒2004年10月～2005年2月
- 3) 関連報告書等の確認と整理 ⇒2004年11月～2005年2月
- 4) ガイドライン検討方法の確認⇒～2005年1月
※現在の分科会の継続または再編
- 5) ガイドラインの作成 ⇒2005年2月～2005年9月

以上

ロジスティクス環境会議

第5回省資源ロジスティクス推進委員会 議事録

I. 日 時：2004年7月23日（金） 14：00～17：00

II. 場 所：東京・港区 芝パークホテル 本館3F 牡丹

III. 出席者：34名

IV. 議 案：

- 1) 事例集のまとめ方について
- 2) その他

V. 開 会

定刻、山本委員長により、開会が宣された。

VI. 省資源ロジスティクス推進委員会の活動概要について【資料1】

山本委員長より、資料1に基づき、事例集アンケート調査の結果について説明がなされた。

VII. 議事の経過

1. 議 事

1) 事例集のまとめ方について【資料2、資料3】

山本委員長より、資料2に基づき、編集方針の確認がなされ、資料3に基づき、事例集の構成と各メンバーから提出された材料を事例集用にまとめた内容の説明がなされた。

メンバーによって情報量の差があるため、情報量の少ないところについては、極力加筆して欲しい旨の依頼がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

【委 員】共同物流やモーダルシフトを実施するうえで、どのような課題をどうやってクリアしたのか、より掘り下げた情報を載せるべきではないか。

【委 員】事例集はこの委員会メンバーで共有するだけでなく、オープンにするのか。

【事務局】活動方針にもあるとおり、1社でも環境活動に取組み企業を増やすためにも、各委員会のアウトプットはオープンにすることを合意いただいている。

また、オープンにする際は、J I L S ホームページに掲載していきたい。

【委 員】ホームページに掲載するのであれば、事例集の内容、精度を高める必要があるのではないか。

2. 第3回分科会

第5回委員会を中断し、各分科会に分かれて意見交換がなされた。

※各分科会の検討内容等については別紙参照のこと。

【意見交換の主な内容】

1) 食品・流通分科会

- ・失敗例と成功例の対比を項目毎にまとめて良いのではないか。
- ・省資源ロジスティクスの活動が社会に貢献していることや、モーダルシフト等のように国から補助金等の助成があることも記載した方が良い。
- ・視覚で理解しやすように、絵や図をできるだけ活用した方が良い。

2) 機械・精密機器分科会

- ・国土交通省が既にホームページで事例紹介をしている。より内容を充実させ、ビジュアルも工夫した方が良いのではないか。
- ・一般的な事例集ではなく、現場で参考、ヒントになるものにしたい。
- ・企業名は可能な範囲で公開した方が良いのではないか。公開することによって、問合せが来た場合も直ぐに対応できるのではないか。

3) 素材分科会

- ・空欄の部分が目立つ為、各社可能な限り書き加えた方が良い。
- ・社名については匿名ではなく、各社の宣伝にもなるため、極力公開すべきではないか。

以上のような意見を踏まえ、以下のとおり進めていくことが確認された。

- ・空欄部分については、各社可能な限り書き加える。その際、絵や図など、可能な範囲でデータを事務局まで送る。
- ・社名については、可能な範囲で公開する。但し、非公開を希望する会社は事務局までその旨連絡をいただく。
- ・事例集のアウトプットについては、紙ベースを基本として、WEB上に載せる場合は、PDFで掲載する方向で正副委員長の検討に一任する。

4) スケジュールについて

以下のとおり、委員会ならびに各分科会を開催することが確認された。

(1) 委員会 ※当委員会全メンバー対象

第6回委員会・・・9月24日(金) 15-17時

(2) 分科会 ※各分科会登録者対象

【食品・流通グループ】

第4回分科会・・・8月27日(金) 15-17時

※正副委員長間の協議により、開催時間を14-17時より変更いたしました

【機械器具・精密機器グループ】

第4回分科会・・・8月23日(月) 15-17時

※正副委員長間の協議により、開催時間を14-17時より変更いたしました

【素材グループ】

第4回分科会・・・8月25日(水) 14-17時

⇒少人数でこれまで十分意見交換出来たため、第4回分科会は中止とする。

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上

省資源ロジスティクス推進委員会

第 4 回 機械器具・精密機器分科会 議事録

I. 日 時：2004年8月23日（月） 15：00～17：00

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：15名

IV. 内 容：

1. 事例集の目的と公開方法について
2. ガイドラインについて

V. 開 会

定刻、軽部主査により、開会が宣された。

VI. 議事の経過

1. 議 事

軽部主査の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 事例集の目的と公開方法について

事務局より、資料1-1、1-2に基づき、事例集の編集方針と公開方法ならびに事例集の構成について確認が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委 員：事例集の項目として「定量化指標」があるが、どの程度書き込めば良いのか。

委 員：環境報告書にも二酸化炭素の排出量等が記載されているが、データの根拠がないと意味をなさない。可能な範囲で算定の根拠を記載してもらった方が良いのではないか。

委 員：効果を表す指標については、コストも含め、可能な範囲で二酸化炭素についても記載した方が見る人にとっては参考になるのではないか。

委 員：共同物流については、各社でどの程度許容があるのかについても記載があった方が良いのではないか。

2) ガイドラインについて

事務局より、資料2に基づき、ガイドライン（指針）作成の考え方と作成方法の例示の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委 員：どこまで強制力を持たせるのか、という視点からも議論が必要ではないか。

委 員：適用範囲はどこで線引きをするのか。

事務局：まずは環境会議のメンバーということで検討いただくことになるのではないか。

委 員：ガイドラインと言っても、唐突に感じる。事例集の課題を掘り下げ、纏めることが先決ではないか。

委 員：共同化、モーダルシフトをより進めるためには、荷主企業と物流企業や取引関係間等の企業間のルールが必要なのではないか。また、ルールというのは計画化、標準化という

視点が必要ではないか。実際に親会社と物流子会社の間でルールについて時間をかけて策定し、コストや環境負荷の低減を目指しており、結果も出てきている。

委員：ガイドラインの検討する分科会の構成については、荷主企業と物流企業で話し合えるようにして欲しい。

委員：最後の提言の取りまとめを意識すると、ガイドラインを検討する分科会は、テーマ毎に編成した方が良いのではないか。

委員：議論の効率性を考えると業種毎に検討しても良いのではないか。

以上のような意見交換踏まえ、9月24日（金）の第6回委員会にて、改めて検討することが確認された。

3. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、軽部主査は閉会を宣した。

以上

省資源ロジスティクス推進委員会

第4回 食品・流通分科会 議事録

I. 日 時：2004年8月27日（金） 15:00～17:00

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：15名

IV. 内 容：

1. 事例集の目的と公開方法について
2. ガイドラインについて

V. 開 会

定刻、魚住主査が都合により欠席のため、事務局より開会が宣された。

VI. 議事の経過

1. 議 事

事務局の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 事例集の目的と公開方法について

事務局より、資料1-1、1-2に基づき、事例集の編集方針と公開方法ならびに事例集の構成について確認が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委 員：掲載する事例が少ないのではないか。

委 員：取組みが進んでいる企業とそうではない企業の事例が混在しているが、全ての事例を掲載するのか。

事務局：基本的には提供いただいた全ての事例を掲載していきたい。

委 員：事例集を見る方も様々なレベルの方が見るため、先進的とは言えない事例であっても、役立つ情報があるのではないか。

委 員：事例集やガイドラインを作成し、JILSのホームページ等で広く公開することは賛成であるが、各メンバーに合意されているのか。

事務局：本会議や当委員会の中でも、確認が行われており、そのようにしていきたい。

2) ガイドラインについて

事務局より、資料2に基づき、ガイドライン（指針）作成の考え方と作成方法の例示の説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

委 員：ガイドラインを作成すること自体に異論は無いが、これまでも様々なところで作られているのと同様に、総論賛成各論反対という結果になってしまうのではないか。

委 員：ガイドラインということであるが、今ひとつピンとこない。あまり大げさなものではなく、ノウハウ集のようなフランクなものが良いのではないか。

委員：事例集からガイドラインへの関連性がわかりにくい。事例集で課題が十分出ていないこともあり、飛躍している部分があるのではないか。

委員：事例集をもう少し掘り下げ、課題について再度検討しても良いのではないか。

委員：ガイドラインについては、もう少し慎重に検討した方が良いのではないか。

以上のような意見交換を踏まえ、9月24日（金）の第6回委員会にて、改めて検討することが確認された。

3. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、事務局は閉会を宣した。

以上

事例集の編集方針と公開方法について

1. 事例集の編集方針

- 1) 企業および複数企業間の省資源・省エネルギーの物流活動の事例を収集および整理のうえ公開し、関係者の活動を支援する。
- 2) 各事例の中から課題解決の方向性を示すポイントを整理し、ガイドラインや提言を作成する際に活用する。
- 3) 各事例を業種別に整理し、問題点や課題がわかるようにする。^{*1}

^{*1}新規に追加

2. 事例集作成のステップ

- | | | |
|-------------------|---|---------|
| 1) 事例集の編集方針の検討と確認 | } | 1月～7月下旬 |
| 2) 分科会(WG)による整理 | | |
| 3) 事例の収集(アンケート等) | | |
| 4) 各事例の編集 | } | 9月上旬 |
| 5) 事例集の作成 | | |

3. 事例収集の公開方法

原則として、当委員会以外への公開については、J I L S ホームページを通じて、PDFファイル形式で公開したい。

但し、事例毎に「しおり」を作成する等、第三者が見た場合に、該当事例を探し易いように工夫する。

以 上